



元号が令和になり、丸二年が経ちました。少しだけ「平成」気分が残っていますが、皆様は如何でしょうか？

さて、先月オープン致しましたお寺のお墓「補陀落（ポータラカ）」はお陰様で「利用者から」好評を頂いております。室内墓、樹木墓、永代供養塔など様々なお墓の形をご提案出来ますので、ご興味のある方は、当寺までご連絡くださいませ。

家族のかたち

良啓

三世代同居が当たり前だった時代がありました。嫡子が家督を継ぐ事が当たり前と言われた時代がありました。でも、現実はどうでしょう？

家族のかたちは、時代と共に変化しています。少子化、核家族化は急激に進みました。沖縄で生まれ、進学や就職を機に県外や海外に移住する若い世代が増えました。子宝に恵まれないご夫婦、娘のみの親子も多くなります。

でも、お墓やお仏壇は昔ながらの形が絶対とされ、現実との矛盾に苦勞する家族をたくさん見てきました。その様な悩みに対する一つの解決策として、補陀落のお墓は、次男などが継ぐ事、苗字が違っても娘が継ぐ事を可能としています。また、将来的に跡取りが途絶えても、永代供養塔に安置し当寺が供養致します。

また、屋外の樹木墓は二名専用の省スペースなお墓です。永代にわたり当寺が管理供養していきます。形が米国のお墓に似ていて、主に女性から賞賛を頂いております。

今月は下記の日程で無料見学会を開催致しますので、ご興味のある方はお申込みください。

尚、コロナウィルス対策として、人数制限を設けております。

ご了承ください。

無料見学会

5月11日・16日
22日・28日
午前の部 9～10時
午後の部 16～17時
各回共に5組限定
(1組2名まで)



「わらしべ長者」のお話

何をやっても上手くいかない貧しい男が、運を授けて欲しいと観音さまに願掛けをする。すると観音さまが現れ、お堂を出た時に初めて手にした物を大切にして西へ行くようにと言われる。

男はお堂を出たとたん転んで一本の藁を手にする。それを持って西へ歩いていくとアブが飛んできたので、藁でしばって歩き続けた。泣きじゃくる赤ん坊がいたので、藁につけたアブをあげた。すると母親がお礼にと蜜柑をくれた。

木の下で休んで蜜柑を食べようとすると、お金持ちのお嬢様が水を欲しがって苦しんでいた。そこで蜜柑を渡すと、代わりに上等な絹の反物をくれた。男は上機嫌に歩いていると倒れた馬と荷物を取り替えようと言われ、死にかけの馬を強引に引き取らされてしまった。やさしい男は懸命に馬を介抱し、その甲斐あって馬は元気になった。

馬を連れて城下町まで行くと、馬を気に入った長者が千両で買うと言う。余りの金額に驚いて失神した男を、長者の娘が介抱するが、それは以前蜜柑をあげた娘だった。

長者は男に娘を嫁に貰ってくれと言い、男は藁一本から近在近郷に知らぬ者のない大長者になった。



あなたにとっては、当たり前にある物や才能も誰かのお役に立てるかもしれませんね。お隣様へどうぞお陰様ありがとうございます。兼次みさえ